

東北地方太平洋沖地震被災状況

岩手県大槌町上空（被災前）



岩手県大槌町上空（被災後）



国道45号で復旧活動する建設会社（岩手県釜石市）



沈没したフローティングドッグ（岩手県久慈市）



三陸沿岸を走る国道45号の被災状況（岩手県山田町）



津波で宮古大橋まで流された漁船（岩手県宮古市）



瓦礫の中を進むTEC-FORCE隊員



川を渡るTEC-FORCE隊員



宮城県塩竈市内の被災状況



冠水した八軒堀地区（宮城県名取市）



折立川防潮水門付近の被災状況（宮城県南三陸町）



津波で瓦礫が押し寄せた仙台空港入り口付近



北上大橋の堤防決壊状況（宮城県石巻市）



JR大谷海岸駅周辺の被災状況（宮城県気仙沼市）



座礁した貨物船の様子（宮城県石巻市）



西埠頭観光栈橋周辺の様子（宮城県仙台市）



東北地方太平洋沖地震被災状況

津波で機能を停止した南蒲生浄化センター（宮城県仙台市）



仙台市地下鉄八乙女駅の被害状況



上屋基礎損傷状況



管路の復旧状況（宮城県仙台市）



甚大な被害を受けた仙台市ガス局港工場（宮城県仙台市）



福島県いわき市内の被災状況



離岸堤が沈没した永崎海岸（福島県いわき市）



海岸沿いの福島県道239号線の被災状況（福島県いわき市）



国道6号線の路面崩壊状況（福島県広野町）



上部工が流出した主要地方道38号線の曙橋（福島県新地町）





3. 11東日本大震災に想う

社団法人 全日本建設技術協会 会長 松田 芳夫

あの恐ろしい3月11日の東日本大震災が発生してから、もう1ヵ月以上が経過しました。

膨大な住宅・建物等の財産が破壊流失され、多くの方が亡くなり、未だ行方不明の方も1万人以上に達します。

被災された方々に心からお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈り致します。

私は河川海岸の分野で防災行政に少しは通じている積りでしたが、このたびの大災害そしてそれに伴う原子力発電所の被災を、とくにテレビの映像を通じて“目の当たり”にした時は、魂が凍るほどの衝撃を受けました。

頭の中で理屈としてわかった積りになっている感覚と、バーチャルではありますが同時進行的体験の生々しさと落差の大きいものにも驚かされました。

我々全建の会員に代表される建設技術者は、今回の一連の災害に対し、技術者として、また、それぞれの分野の技術の論理に基づいて分析を行い、何故、被害がここまで拡大したのか科学技術的に検証してみる必要があると思います。

災害の第一原因である宮城県沖のマグニチュード8クラスの地震はその発生が予想されていましたし、津波に関しては三陸沿岸では過去にいくたびか津波に襲われてきた歴史があり、また、つい数年前のスマトラ沖地震では高さ10~20mの大津波が発生しインド洋沿岸に大被害を与えました。

地震と津波の発生については想定しうるとなれば、

問題は防災対策としてどの程度の大きさの外力を考えねばならぬのか、計画以上の外力に対しては如何に対応すべきなのかという防災哲学そのものと云うこととなります。今後の災害復旧と復興事業計画の策定に際して十分に考慮することが重要です。

暗い悲しい話ばかりの災害の中で、いくつかの見事な成果も伝えられています。

地震発生時に地表が激しく揺れた地域を走行中だった90本近くの新幹線電車は全て安全無事に停止し、また、津波で流失した地域の4本のローカル線列車の乗員乗客は列車の停止とともに乗員の指示で全員無事に避難したとのことでした。

災害発生後にわずか数日の間に被災道路を啓開し、その後の救援活動や応急復旧を容易にした地方整備局や地方公共団体の職員、TEC-FORCE、防災ボランティア、学協会及び建設・コンサルタント等業界の建設技術者の努力は余り報道されてないので一般には知られていません。

今後、調査が進むにつれ公共施設の要災害復旧箇所は1万箇所以上になるものと推定され、全建会員をはじめ建設技術者は増々多忙になるものと思われます。また、並行して地域の復興計画、再建計画を100年先を見通して策定する作業も伴います。

今こそ建設技術者の心意気と実行力を示し、国民の期待に応えるべく全建会員諸氏の奮起を切望する次第です。